

＜研究成果の紹介＞

「前川次郎」に対するフィガロン乳剤の着色促進効果

～フィガロン乳剤が使用できるカキ品種の制限がなくなりました～

農業研究所 園芸研究課

1. 研究の背景

三重県のカキ栽培面積は522haで、果樹類ではかんきつに次いで栽培規模が大きく、温暖な気象条件を活かし、中南勢地域の「前川次郎」を中心に早期出荷産地を形成しています。しかし、近年は温暖化との影響とみられる秋季の高温で着色が遅れがちになり、販売単価の不振にもつながっています。

「フィガロン乳剤(成分名;エチクロゼート)」は、カキの着色促進に効果のある植物生育調節剤として「富有」、「西村早生」、「西条」、「次郎」、「松本早生富有」および「太秋」で使用可能でしたが、これまで「前川次郎」には登録がなく使用できませんでした。そこで、三重県農業研究所は(株)日産化学と協力し、フィガロン乳剤の「前川次郎」への登録拡大に向け取り組んだ結果、平成21年6月に品種の限定を取り除き、すべてのカキ品種に使用できるように農薬登録が変更になりましたので、その研究成果を報告します。

2. 成果の内容

フィガロン乳剤のカキへの使用は、満開70～

80日後、およびその処理15～20日後の2回散布処理で「前川次郎」でも同じです。処理により着色が7日程度促進され(図1)、収穫時期も早まることが確認されました。また、処理果の果実品質は無処理と同等で問題はなく、日持ちを確認したところ、無処理果実とほとんど差はないことがわかりました(図2)。

3. 技術の適用効果と適用範囲

県内のカキ「前川次郎」に適用します。「蓮台寺」についても使用可能になりましたが、効果については検討する必要があります、農業研究所でも22年度以降試験を実施する予定です。

4. 普及・利用上の問題点

使用に際しては使用基準をよく読んで遵守してください。自分の園地の満開日を把握することと、特に処理可能な期間が短いので、処理期を逸さないよう注意が必要です。極端な老齢樹や樹勢の弱い園では効果が劣ることがあるので、樹勢の安定した園で使用してください。

(西川 豊)

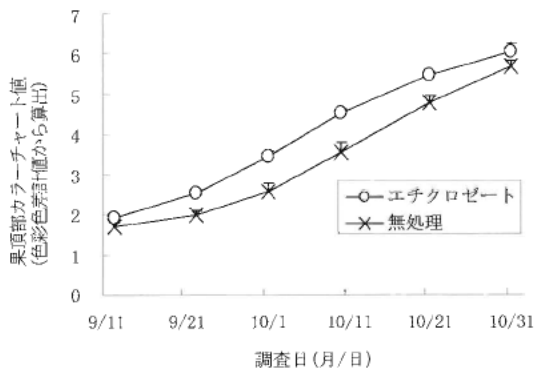


図1 フィガロン(エチクロゼート)乳剤の処理がカキ「前川次郎」の着色に及ぼす影響(2008)

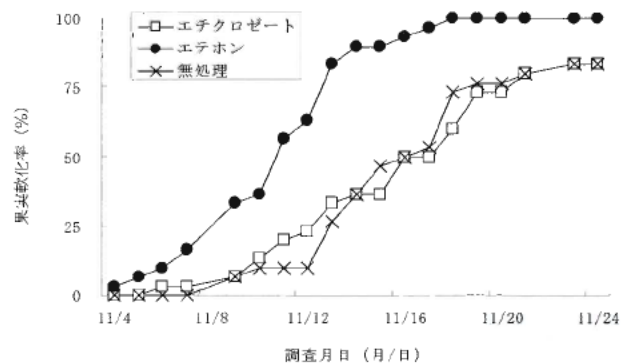


図2 フィガロン(エチクロゼート)乳剤の処理がカキ「前川次郎」の日持ちに及ぼす影響(2009)